



廿日市市教委だより

平成28年
11月14日
第4号

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

校庭にも落葉が舞う季節となり、一気に寒さが厳しくなってきました。今回の市教委だよりでは、指定校の取組を中心にお伝えします。



ICT機器を活用した授業実践が進んでいます

11月4日（金）に、市長・教育長・教育委員による学校訪問がありました。この取組は、今年で3年目となります。今回は四季が丘中学校を訪問し、給食や授業の様子を参観させていただきました。



四季が丘中学校は、今年の9月からICT機器が整備され、ICT活用教育推進リーダーを中心に、ICT機器を活用した授業づくりに取り組んでいます。この日参観した授業では、社会や英語の授業で電子黒板を利用して、グラフや画像の資料を提示したり、インターネット地図のストリートビュー機能を活用したりして、最新のICT機器と、これまで大切に培われてきた指導法を融合させながら、生徒が主体的に学ぶための工夫がされていました。それらの授業で、生徒がキラキラした表情で学ぶ姿がとても印象的でした。



今年度は、小学校6校、中学校4校にICT機器を整備しました。平成30年度までには全校に整備する予定です。ICT機器を活用して、子どもたちがより主体的に、より深く学べるような授業を実現していきましょう。

ゼロからのスタートじゃない！ 幼保小接続カリキュラムを作成しています

「ゼロからのスタートじゃない」、この言葉は、幼保小の連携を進めていく上で、キーワードになる言葉です。小中連携と同じく、幼児教育と小学校教育との円滑な接続のため、幼保小連携も大切です。友和小学校は友和保育園、友和幼稚園とともに、平成27年度から広島県幼保小接続カリキュラム研究開発事業の指定を受け、アプローチカリキュラム（幼保）、スタートカリキュラム（小）の作成について研究しながら、連携を進めています。連携することのよさを2つ紹介します。



先生たちが、お互いの指導方法を共有できる！



小学校の先生による保育体験

小学校では1年生を「一番小さな子」として見てしまいますが、園では年長児として様々な役割を経験しています。芽生えた学びを小学校の学習につないでいく必要があります。1時間ごとに到達目標がある小学校と、活動のストーリーを大切にしている保育の違いを理解することの大切さを感じています。



カリキュラム作成協議会（年間8回）

事業報告会（H29.2.22） 県庁講堂

友和小学区を含めた県内指定の5地域の取組を発表します。ぜひご参加ください！



幼児期から児童期への接続がスムーズになる！



「ゆうちゃんタイム」の自由遊び

4月、1年生はランドセルを置いたら、「ゆうちゃんタイム」から始まりました。自由遊びをたっぷり行い、朝の会へ。不安いっぱい入学してきた子どもは、安心して小学校での生活をスタートしました。幼児教育の考え方を取り入れることで、子どもに安心感が生まれました。



アプローチカリキュラムに基づいた保育実践

道徳の教科化に向けて ～津田小の取組から～

平成30年度より「特別の教科 道徳」が全面実施されます。本市では、津田小学校が、文部科学省委託「平成28年度『道徳教育改善・充実』総合対策事業」において、「生命を尊重する心を育む道徳教育」というテーマを中心に、確かな理論のもと豊富な実践を積み重ねています。特に多様な指導方法の工夫の1つとして問題解決的な学習に取り組み、成果を上げています。



【道徳教育改善・充実のポイント】

- 道徳的価値を自分との関わりで考える。
- 道徳科における問題とは、道徳的価値に根差した問題であり、単なる日常生活上の諸問題とは異なる。
- 多面的・多角的に考察し、主体的に判断する。

〔中央教育審議会 教育課程部会 考える道徳への転換に向けたワーキンググループ（第4回）配付資料より抜粋〕

子どもに確かな学力を身に付けさせていくために

平成28年度の「全国学力・学習状況調査」と「『基礎・基本』定着状況調査」の結果が公表されました。各学校では、児童生徒の学力の定着状況を分析し、課題と判断した領域や分野の「指導方法等の改善計画」を作成しました。

教育委員会では、本市の学力調査の結果を分析した資料を作成し、校長会で配付しました。また、今後、学力を定着させるための授業改善等の参考資料を作成し、各校に提示するよう計画しています。

学力調査の結果を分析すると、自校は30%未満が多いのか、30～60%が多いのか、分布の状況によって重点的に対応すべき子どもの「層」が異なることがわかります。学級や学年で「この課題を○人できるようにしよう」と考えると、「◇◇さんができるようにするためには・・・」というような、子どもの顔が見える対策につながります。**重点的に対応すべき子どもの「層」を明確にした授業改善**を行い、できているかどうかを点検し、できていたらしっかり評価してあげましょう。

学力が定着していると子どもが実感できるといいですね。



つながり支援プロジェクト
シンボルマーク

本との出会いから 学校支援地域本部事業の活動

学校支援地域本部事業では、学校の依頼に応じて地域の方々が教育活動を支援しています。

今回は、本事業の活動の一つである本の読み聞かせの様子を紹介します。

〈朝の10分間の読み聞かせ：大野東中学校〉



読書ボランティアを活用している学校の割合**85%以上**をめざしています。「廿日市市子どもの読書活動推進計画（第二次）」より

子どもの成長に合った本を選択しています。生徒はよく聞いてくれ、反応もよいです。地域でも子どもの顔と名前が分かってきました。



生徒にとって本を読むきっかけとなると同時に、地域の方の生き様に触れる時間にもなっているようです。

学校支援地域本部は現在14本部の設置ですが、平成30年度には市内の全小中学校に設置の予定です。

生徒指導 スキルアップ!④

積極的生徒指導していますか? N02

前号で積極的生徒指導の重要性をお伝えしました。すると、「もっと具体的な実践を知りたい!」という声が市教委に届きました。そこで今回は、積極的生徒指導の具体について「ベル着」を例にして説明します。


○「ベル着」の実践

【よくある取組】

・ベル着を守るように先生が子どもに指導し、毎時間先生が確認して守らせきる。

【A 中学校の取組】

- 1 学習規律の課題を生徒に**考えさせ**、その過程でベル着の取組の必要性に**気付かせる**。
- 2 生徒会を通じ各学級に伝え、学級の代議員がベル着の確認をすることで、**生徒自らが守っていく取組**にしていく。

 **スキルアップポイント!**

2つの取組を比較した時、どちらがより効果的だと思えますか。生徒指導の目標は「自己指導能力の育成」であることから、積極的生徒指導のポイントの1つは「児童生徒の自主的な活動」にあると言えます。A中学校の取組は「ベル着」の指導の中に、子どもたちが自主的に判断、行動し、積極的に自己を生かしていけるような「しかけ」を取り入れているのです。こんなちょっとした工夫を、一歩進めてみませんか。